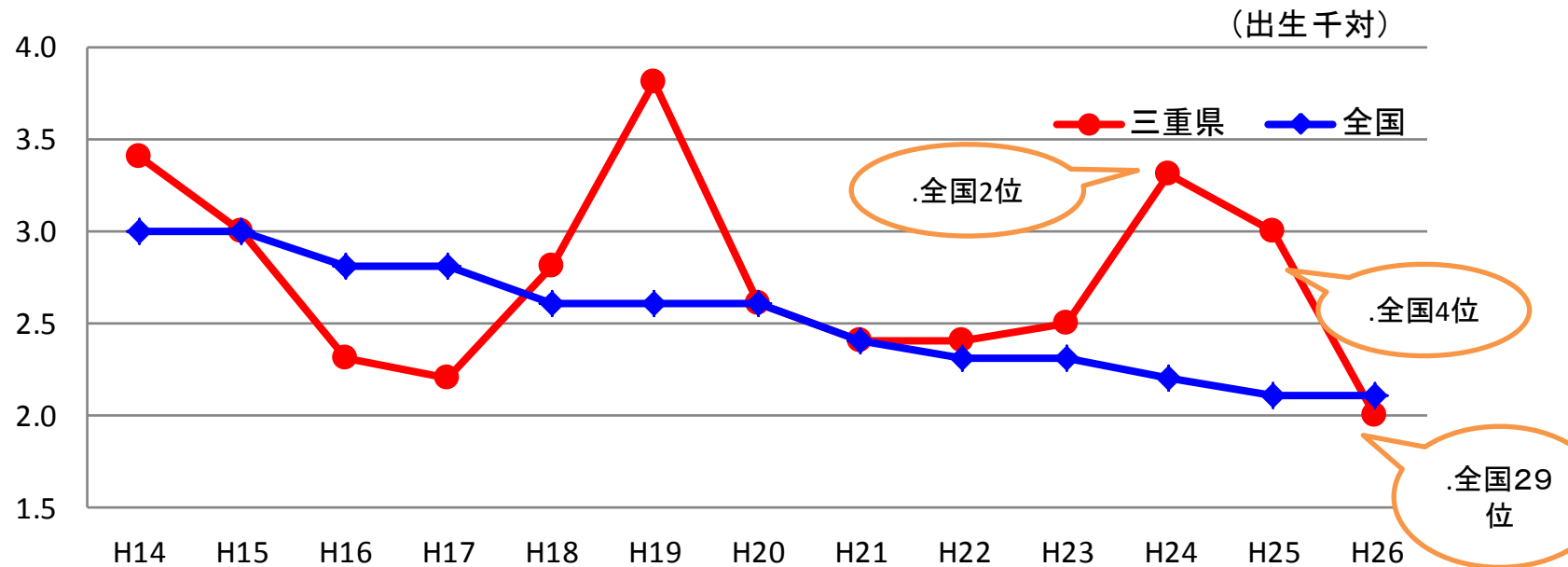


乳幼児事故予防等推進事業 について

H28. 2月

乳児死亡率の推移



年次	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
三重県	3.4	3.0	2.3	2.2	2.8	3.8	2.6	2.4	2.4	2.5	3.3	3.0	2.0
全国	3.0	3.0	2.8	2.8	2.6	2.6	2.6	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1

死因別乳児死亡率 (H22～26年 5年累積)

	総数 (出生千対)	1位 (出生10万対)	2位 (出生10万対)	3位 (出生10万対)	4位 (出生10万対)	5位 (出生10万対)
乳児死因 分類		先天奇形, 変形及び 染色体異常	周産期に 特異的な 呼吸障害 及び心血 管障害	乳幼児突 然死症候 群	不慮の事 故	胎児及び 新生児の 出血性障 害及び血 液障害
全国順位	7位	19位	10位	15位	4位	9位
全国値	2.2	80.0	29.8	13.2	11.0	7.5
三重県値	2.6	87.3	36.8	15.0	23.2	10.9

三重県は「不慮の事故」が3位

不慮の事故死因別乳児死亡率 (H22～26年 5年累積)

	総数 (出生10万対)	1位 (出生10万対)	2位 (出生10万対)	3位 (出生10万対)	4位 (出生10万対)	5位 (出生10万対)
	不慮の事故総数	その他の不慮の窒息	胃内容物の誤えん及び気道閉塞を生じた食物等の誤えん<吸引>	その他の不慮の事故	交通事故	不慮の溺死及び溺水
全国順位	4位	2位	7位	—	—	2位
全国値	11.0	4.26	3.43	1.96	0.52	0.50
三重県値	23.2	13.64	6.82	—	—	2.73

乳児の不慮の事故対策は「窒息」「誤えん」

乳幼児事故予防対策推進事業

「乳幼児事故予防推進会議」

1 第1回会議(H27.9.24)でた課題

外因死から・人口動態統計から・小児の事故事例から

うつぶせ寝、母乳育児、注意すべき月齢(寝返り以降)

ポピュレーションアプローチとハイリスク家庭への支援

2 第2回会議(H27.12.10)

○人口動態統計とうつぶせ寝

○乳児の外因死22例の検討

22例中19例が窒息、発見時の体位で12例がうつぶせ寝

生後6ヵ月以降では10例中9例がうつぶせ寝で発見されている

人工乳が15例あり。早く寝かせたいという母の願いがある。

○三重県内における小児の事故死亡と事故死亡ニアミス

検視と集中治療により死亡の2つを2012-2014年で集計:65例

○乳幼児事故予防の啓発について

保護者向け啓発について

「赤ちゃんの安全をチェックしてみましよう」チェックシートの検討

母子保健事業でのリーフレット配付...内容の検討

一般向け啓発

「こんなところに子ども目線」チラシの検討

○研修会打ち合わせ

「子育て支援に関わる職員の事故予防指導能力向上のための研修会」

平成27年12月20日(日)

対象: 医師、保健師、保育施設職員、消防職員、
子育てボランティア等

講演: 「小児の気道異物事故への対応と予防」

「乳幼児突然死症候群(SIDS)と乳幼児突発性危急事態ALTE)」

ワークショップ

職種別・多職種連携

乳幼児事故予防啓発の実施

・保護者への啓発

4か月健診、10か月健診等で自己チェックシートの配布

市町母子保健活動、小児科医療機関等でのリーフレットの配布・掲示

*2月初旬発送

・一般向け啓発

新聞折り込みチラシ等による内容とする。

*2月3日実施

SIDSの認知度は上がっているが、 予防策の認知度は下がっている？

1歳6か月児健診時保護者へ
のアンケート(H27.10~12)

1875名回答

乳幼児突然死症候群(SIDS)について知っていますか(%)

有効回答数1864名

微増

	H27調査	参考(H26)	参考(H22)
知っている	89.2	88.3	88.7
知らない	10.8	11.7	11.3
計	100.0	100.0	100.0

「知っている」と答えたもののうち予防策を知っている割合

	H27調査	参考(H26)	参考(H22)
あおむけ寝で育てる	80.0	89.4	87.7
禁煙する	54.6	60.5	71.4
できるだけ母乳で育てる	38.6	44.1	54.8

全ての
キー
ワード
で低下

乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合

1歳6か月児健診時保護者へのアンケート(H27.10~12)

1875名回答

お子さんが1歳になるまでの寝かせ方についてお聞きします。

*運動のためうつぶせの姿勢にしたり、自然に寝返ってうつぶせになる場合は該当しません。

有効回答数
1714

年々増加

	H27調査	参考(H26)	参考(H22)	参考(H14)
うつぶせ寝をしていた	6.5	4.6	4.9	19.8
時々うつぶせ寝をしていた	21.9	21.9	18.6	
うつぶせ寝はほとんどしなかった	71.6	73.5	76.5	80.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0

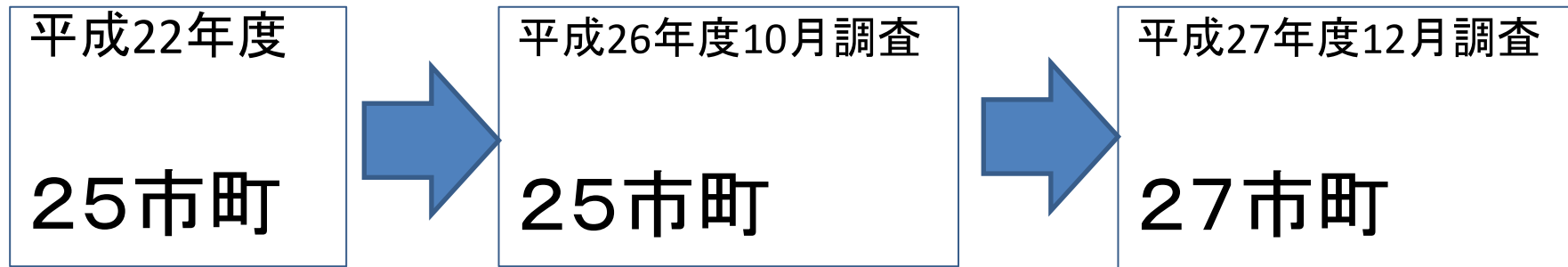
参考<国の調査>

お子さんを寝かせ始めるときはどのように寝かせていますか。

	H25	H21	H17	H13
うつぶせ寝と答えた人の割合	1.3	1.3	2.4	3.5

*平成25年度厚労科研「健やか親子21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究(山懸然太郎班)

事故防止対策の取組を行っている市町の数



県内市町の乳幼児事故予防活動

(平成27年12月調べ)

- ・市町の事故予防活動(27/29市町で実施)

実施内容	市町数
パンフレットの配布	27
健康教育	15
訪問時に指導	14
その他	5

- ・その他の内容

消防による救急講習	桑名市
各健診時に指導	名張市
事故の危険箇所をモデルルームをロビーの一角に展示	尾鷲市
乳児健診での保健指導	熊野市
1歳半健診にて警察参加の事故防止周知	菰野町

家庭内での事故予防

1歳6か月児健診時保護者へ
のアンケート(H27.10～12)
1875名回答

幼児の浴槽の転落事故を予防するために何か工夫をしていますか

	H27調査	参考(H26)	参考(H22)	参考(H14)
している	72.8	69.6	65.1	72.2
していない	27.2	30.4	34.9	27.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

家庭内での事故予防

1歳6か月児健診時保護者への
アンケート(H27.10~12)

1875名回答

工夫をしている人の割合	H27調査	参考(H26)	参考(H22)
入浴後はすぐお湯を抜いて浴槽内を空にする	66.5	69.3	65.3
浴槽の淵の高さを50cm以上にしている	12.1	11.8	14.1
お湯をはっている間は浴槽に入りにくい丈夫な蓋をしている	23.5	23.7	20.7
浴槽のドアを子どもが自分であけることができないように工夫している	45.1	38.1	42.0
その他	6.4	6.7	8.2

浴室のドアに関しては
取り組みが進んでいる

参考<国の調査>

浴槽に水をためたままにしないように注意していますか。

	H25	H21	H17	H13
注意していると答えた人の割合	73.5	71.5	69.2	64.3

乳幼児のいる家庭で、風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないように工夫した家庭の割合

	H25	H21	H17	H13
工夫していると答えた人の割合	38.2	36.2	32.0	31.3

「知って防ごう**三重**の子どもの事故」による啓発

三重県では平成22年～26年の5年間の累積値でゼロ歳児の不慮の事故の死亡率が高値でした。

ゼロ歳児の不慮の事故の内訳は 不慮の窒息が第1位
やわらかい布団でのうつぶせ寝、毛布や枕に注意

赤ちゃんはあおむけ寝で育てよう

母親 + おばあちゃん世代への啓発

市町母子保健事業で配布

子育て支援センター・小児科の外来等に提示